

各位

日本農産工業株式会社

## 2013年4～6月期の畜産配合飼料価格について

### 畜産配合飼料価格改定額

弊社は、2013年4～6月期の畜産配合飼料価格につきまして以下の飼料原料情勢等に基づき、2013年1～3月期に比較して全国全畜種総平均トン当たり約3,250円値上げすることを決定致しました。なお、改定額は地域別・畜種用途別・銘柄別に異なります。

### 飼料原料・外国為替情勢について

#### 1. 主原料（飼料穀物）

シカゴ定期とうもろこし相場は、年明け以降、7ドル割れから7ドル台半ば（ブッシェル当たり）にかけての範囲で取引されています。南米産の豊作の可能性が高くなっているものの、昨年の大旱魃による米国産の不作により、基調として需給は逼迫傾向にあるため、相場は底堅く推移しています。

今期のとうもろこしの作付面積は昨年並みの大きな数値になるとの見方が有力ですが、逼迫した需給状況から、昨年産とうもろこしが流通する夏場まで相場は下がりにくい展開となることが予想されます。

#### 2. 副原料（植物蛋白原料）

シカゴ定期大豆粕相場は、南米産大豆の豊作が確定的となったものの、ブラジルのインフラ不備による輸出遅滞が発生し、米国産大豆への需要が衰えないことから、値下がりは限定的となり、年明け以降400ドル台前半（ショートトン当たり）で上下する展開となっています。

4～6月期間渡し大豆粕価格は、ドル高円安の影響を大きく受け、1～3月期間比較10%以上の大幅値上がりとなる見込みです。

#### 3. 海上運賃

米国ガルフ／日本間パナマックス級本船の運賃は、トン当たり40ドル台前半～後半水準での取引となっています。期近では、南米のインフラ不備による滞船の激化を背景とする船舶需要の逼迫観測が強まり、運賃相場は上昇傾向となっています。

#### 4. 外国為替

直近のドル／円相場は、1ドル＝96円台で取引されており、3ヶ月前と比較すると10円以上の大幅ドル高円安となっています。